

# 敷島南小学校 学校関係者評価書

平成30年2月2日（金）

敷島南小学校 学校関係者評価委員会作成

## 第2回 学校関係者評価委員会

実施日：平成30年2月1日（水）午後7：00～8：30に実施予定であったが、降雪のため資料配付による意見・助言の記載による方法に変更して実施

参加者（回答者）

（学校関係者評価委員）

学校評議員：関 芳雄 松岡栄子 土橋 満 浅原千恵子 米山裕文

P T A会長：中込浩治

（学校側：意見・助言拝受）

校長：矢ヶ崎二男 教頭：丸茂和也 教務主任：中山 素

## I 学校側から提案された内容

○自己評価結果及び保護者、児童アンケート結果と今後の方針について

◇推進継続してきた事項及び継続していきたい事項

- ・教職員の積極的な姿勢による、充実した教育活動の取り組み
- ・児童の学力向上につながる授業実践
- ・友達と仲良くし、進んで学習し、学校生活を楽しむ児童の姿
- ・児童の規範意識の向上

◇改善・一層充実していきたい事項

- ・危機管理マニュアルの周知徹底
- ・家庭学習（宿題以外）の自主的な取り組みの指導
- ・児童の道徳性のさらなる育成と「特別の教科 道徳」の趣旨を生かした授業の取り組み
- ・児童が友達や教職員に、保護者が教職員に何でも相談できる体制

## II 協議された主な内容

○学校教育目標に関して・学校経営について

（学校関係者から）

- ・学校教育目標に全教職員が心一つに実践することにより、目の前にいる子ども達に確かな力がついて来るものと考えられる。

- ・PDCA サイクルを生かした教育活動は、よりよい成果が出る活動と思う。改善案にあるように全教職員の共通理解を大切に次へつながる実践ができるとうい。
- ・学校教育目標の中の「心豊かに」という部分が具体的にイメージしにくいので、手立て等を示していけると良い。

#### ○学校運営について

- ・学校運営に教職員一人一人が参画している学校だということが分かった。学校は安全安心で生活できることが望ましいが、様々な危険を予測して訓練しておくことは大切である。子どもの命を一番にこれからも継続してもらいたい。
- ・長塚地区も住宅が増えている。登下校時の安全に配慮し、パトロールしている。あいさつ等できるようになってきている。
- ・あいさつをする子どもたちが増えてきている。

#### ○学習指導について

- ・授業や行事を見て、どの学級も学年も落ち着いて楽しく学習していることが分かった。日々の積み重ねの成果とを感じる。
- ・基礎基本の定着に加え、家庭学習の習慣化も有効であるので、連携協働により定着できると良い。
- ・「授業が分からなくて先生に聞いていますか」等の質問の肯定的回答は75.8%であったが、それは4人中1人は聞けない状況にあると捉えるべきである。
- ・道徳の授業では児童の「自己責任」の問題だけでなく、学校と家庭及び地域での道徳的实践とは何かを学習していくべきと考える。

#### ○生徒指導について

- ・いじめや問題行動の早期発見及び迅速で正確な事実確認が大切である。またこのことについて全職員で組織的に対応していくことが子どもにも保護者にも安心である。
- ・いじめ防止との関連からも「困ったとき相談できる友達がいるか」「先生がいるか」という項の児童と保護者の回答のギャップが問題である。日常の学校・家庭・地域との連携協働体制の構築についての具体的行動が大切である。

#### ○地域との連携について

- ・「社会に開かれた教育課程」推進の観点からも、地域との連携協働は大切なことである。登下校の安全指導のボランティアの方が雨の日も風の日も子どもたちに優しく声をかけてくださる姿には感謝するばかりである。
- ・キャリア教育推進の観点からも近隣の商店や米作農家の方との教育的交流は働くことの大変さや大切さ等を学ぶことができる良い機会である。多面的な視点での地域交流は児童にとっても素晴らしい経験となる。

#### ○学校の特色に関して

- ・児童の日常の安全確保が優先され、通学時や地域でのあいさつをどこまで指導すべきか多くの保護者が判断しかねてはいないか。あいさつも掃除も学校と家庭では同じ趣

旨で行うことを共通理解して、共に当事者意識をもって取り組んでいくと良い。

- ・明るく素直な児童が多いと感じる。知らない人へのあいさつは難しいかもしれないが、先日子どもに声をかけると「こんにちは」と笑顔で答えてくれた。かわいい子どもたちを地域で見守っていきたい。

#### ○その他

- ・魅力ある学校作りは今までの学校や保護者及び地域の力が結集されたためと感じる。今後とも魅力ある子どもを通わせたい敷島南小学校であってほしい。
- ・学校・家庭・地域で連携して三位一体で子どもたちを育てていく体制をよりしっかりと構築して地域で生き地域を育てる子どもたちを育てていけると良い。

## <学校関係者評価書>

### I 全体評価

- ◇ 教育活動の実践に対する評価は、良好な水準にある。
  - ・学校教育目標、教育課程に基づいた学習指導、生活指導等の学校運営が適切に計画的に実施されている。
  - ・基礎基本を重視した授業や個に配慮した少人数指導等きめ細かな学習指導が、推進されている。
  - ・校内研究を中心に、小中学校9年間を見通した子どもたちの育成を図るための授業実践がなされている。
  - ・あいさつや清掃活動は、子どもたちの生活の中に徐々に習慣化されつつある。今後より家庭や地域との連携を図り強化をしていきたい。
  - ・子どもの心を育む読書活動、体験活動等の指導が保護者や地域との連携のもと適切に行われている。読書活動は、保護者、読み聞かせボランティアの方々により、全学年で読み聞かせが実施され、読書の楽しさ及び豊かな心を育む活動が子どもたちの中に定着をしている。
  - ・危機管理マニュアルを含む防犯防災教育、防災計画を子どもや地域の現状に応じたものへの転換を絶えず行い、子どもたちが「自分の命は自分で守る」力を身につけることを第一目標に、訓練の方法やケース等についても細分化して行うことで自分を守る能力をさらに高められるように指導を推進していく。

### II 特徴

#### ◇教職員の自己評価より

前期自己評価と同様、全ての項目で肯定的な回答割合が高かった。特に、学校教育目標、学校経営方針を意識した教育活動の実践は、高い水準にあるといえる。学校長を中心とした協力支援体制も確立され、各自の意見が尊重され、生かされる組織にな

ってきている。危機管理マニュアルの徹底は改善傾向にある。より実態に即した行動ができるように研修の充実、当事者意識の向上を図り子どもの命をも守ることができる学校作りを図っていく。

#### ◇児童のアンケートより

ほとんどの質問項目で肯定的な回答が多い。静かで落ち着いた雰囲気の中で楽しい学校生活を送っている様子がうかがえる。一方、思考力、判断力、表現力を高めるための授業づくりについては、さらなる努力が求められる。

生活面では、「もし困ったことがあったら、相談できる友だちや先生がいますか」等教師と児童の人間関係について、肯定的な回答が増えてきているがより一層の児童理解や具体的な教育活動を推進していく。

児童一人ひとりに目を向けたきめ細やかな相談体制、学級内での好ましい人間関係の構築を今後ともより実践していく必要がある。

#### ◇保護者のアンケートより

ほとんどの質問項目で肯定的な回答が多く、学校への信頼がうかがえる。一方で、思考力、判断力、表現力等の活用力を高めるための授業づくりについては、さらなる工夫努力を求めている。

生活面では、保護者としての義務や責任についてしっかりとした意識をもって学校と連携協働しながら尽力していきたいと考えている。